

課題

- 多様な悩みへの対応体制の不足
- 子どもを預けられる環境の不足

市民や企業が支え合い、女性の希望がかなうまちへ！

課題

- 企業のノウハウ不足
- 取組企業に対する支援の不足

女性の希望をかなえる！

ワンストップ窓口（ここシェルジュSAPPORO）

◆女性の多様な働き方支援窓口運営事業
就業を希望しながらも求職活動の方法や働き方に悩みを抱える女性を対象に、きめ細やかな支援を行う窓口「ここシェルジュSAPPORO（H30.10開設）」を運営。
【令和元年度実績】 仕事や保育に関する相談者数：318件
セミナー参加者数：486名



レベル

- 対象者…潜在的求職者のほか、就労継続を希望する女性を対象に含め拡大。
- 子育てサロン等での出張相談…実施場所を2区→10区に拡大。

子育て環境の充実

◆私立保育所等整備補助関連

継続

令和元年度整備分として、42施設・1,363人の保育定員を拡充。
令和2年度計画では、35施設・1,919人拡充予定。
（認定こども園：14園/923人、保育所：18園/939人、地域型：3園/57人）

◆保育士等支援

継続

潜在保育士の復職や保育所等からの求人と求職のマッチング等を行う「保育士・保育所支援センター」の運営、合同面接会や高校生保育職場体験の実施、保育士資格を取得する際に要する費用の補助等を実施。

◆保育人材確保緊急対策

新規

保育士の就労継続や潜在保育士の復職、将来の保育を担う次世代の育成といった観点で保育人材確保支援に向けた各種補助等を実施。

■保育支援者配置補助…保育士の負担軽減により、就業継続及び離職防止を図ることを目的に、地域住民や子育て経験者等の人材を保育の周辺業務を行う保育支援者として配置する費用の一部を補助。

■札幌市保育人材確保に向けた一時金給付…資格新規取得者の確保、就業継続及び採用後一定期間における離職防止を図り、保育人材を確保することを目的に、市内の認可保育所等に保育士等として勤務する者（採用から3、6、9年勤務を続けた保育士等）に一時金を給付。

■札幌市潜在保育士短時間就労支援補助…潜在保育士等の再就職支援、常勤保育士の負担軽減、就業継続及び離職防止を目的に、パートタイムとして、朝・夕など開所・閉所時間帯に保育士を配置する費用の一部を補助。

■保育人材イメージアップ…進路や職業選択について考え始める中高生やその保護者、関係者等を対象に保育士のやりがいや職業としての魅力をPRする働きかけを行う。

◆子育て援助活動支援

子育ての援助を受けたい人と援助したい人による会員組織を構成、会員間の預かりをコーディネートするほか、病児・病後児預かりで利用料補助を実施。

レベル

- 子サボ、緊サボ、病後児デイの事前手続き一元化…令和元年10月から市内全区で実施している。

課題

- 職場や家族など、女性を含む周囲の意識

市民や企業が支え合う！

社会の意識改革

◆さっぽろ女性活躍・働き方改革応援事業

女性が働きやすい環境づくりに向け、女性に限らず、男性や企業大学生など多様な立場の市民が参加するフォーラム等を開催。

継続

■若者向けイベント「SAPPOROライフデザインカフェ」…学生や子育て世代、若手社員など100名が参加

■さっぽろ女性応援festa2019…北海道や関係団体・企業と共催、2日間で延べ360名が参加。

レベル

■出張SAPPOROライフデザインカフェ…さっぽろ連携中樞都市圏ビジョンに基づき、小樽商科大学にて大学生向けワークショップを開催。35名が参加。

■Smile Sharing Bookの作成…女性が働きやすい環境

づくりに向け、パートナー間で、家事のシェアや負担軽減について考えることを目的とした冊子を作製。市有施設や関係企業、団体、連携中樞都市圏市町村のほか、各区戸籍住民課や健康・子ども課、市内認可保育施設に配布。配布部数はvol.1・2ともに各6,000部。

■Smile Sharing Bookを活用したワークショップの開催…令和2年2月に上記冊子を活用したワークショップを開催。21名が参加。

※R2年度は、新型コロナウイルスの影響から、集客イベント実施を見合わせ。動画制作・オンラインイベント・広報媒体を活用した啓発を実施。

※各区においても、女性が働きやすい環境づくりや、男女の多様な生き方についての理解促進などを目的とした座談会や、公開学習会などを実施した。

働きやすい企業を広げる！

企業に対するノウハウ支援

◆女性社員の活躍応援事業

女性が働きやすい環境整備に向けた企業向けセミナーや男性も含めた働き方改革をテーマに出前講座の開催、女性活躍推進に向けた働き方改革ロールモデルづくりの実施。
※R2年度は、新型コロナウイルスの影響から、従来の直接対面型にオンラインを組み合わせてセミナー等を実施。

継続

■ロールモデルづくり…10社のコンサルティング支援参加企業は7月の選考会で決定し、8月より専門家の派遣を開始。1月末まで支援を実施。改善モデル事例報告会を2月に開催し、81名が参加。

■企業向け集合セミナー…女性活躍や男性も含めた働き方改革に向けた取組によって、人手不足解消や生産性向上など経営改善につながった中小企業の事例等を紹介。令和元年度は全3回で130名が参加。

レベル

■企業向け出前講座…男性の家事・育児参加を促すようなコースを新たに設け、「両立支援等助成金」等について紹介するなど、男性社員の育児休業取得が企業にとってもメリットがあることが伝わるような内容としている。令和元年度は17回開催し、297名が参加。

取組企業に対する支援の充実

◆男女が共に活躍できる職場づくり応援事業

継続

女性活躍推進等に取り組む企業を独自の基準で認証する「札幌市ワーク・ライフ・バランスplus企業認証制度」を運用。
令和2年9月末時点の認証総数は511社。

（STEP1：243社、STEP2：115社、STEP3：153社）
4次プランにおいて、認証取得企業数500社を数値目標としているが、令和2年8月に達成。

そのほか、無料の推進アドバイザー派遣や企業向けセミナーを開催。

◆テレワーク・業務管理システム普及促進

継続

市内中小企業等を対象に、テレワークや業務管理システム導入に対する補助等を実施。

※R2年度は、新型コロナウイルスの影響から補助を大幅に拡充。

■テレワーク・業務管理システム普及促進補助（令和元年度実績）

- ▶テレワーク導入補助：4件
- ▶業務管理システム導入補助：1件

■市民向けセミナー…さっぽろ女性応援festaにて、テレワーク制度の普及促進を目的とするセミナーを開催。21名が参加。

